

※板書例を参考にきれいなノートを作りましょう！

※ で書かれている指示は板書しなくていいです。

(板書例) 教科書 P.76～84

「壁に残された伝言」

井上恭介

目 「無限の連鎖は、今も続いている」に込められた筆者の思いをまとめよう！

無限に連鎖する「あの日」

P.82～(25段落～27段落) 筆者の「伝言」に対する意識の変化を確認しよう！

取材をした当初(初め)と、取材の終盤(最後)、それぞれの筆者の意識を本文中のことはを用いて答えなさい。

筆者の「伝言」に対する意識の変化

初め…(例) 「正直途方に暮れた」 「次から次へと疑問が浮かんでくるばかりだった」

—取材を通して—

最後… 「伝言」の関係者が涙を流す姿を見て、もう一度文字を読んで涙を流した

「涙を流した」とあるが、筆者はどんなことに対して涙を流したのかを「文字」「人の心」ということばを使って答えなさい。

人を探す目的で書かれた文字が、人の心を揺さぶったこと。

P.83(30段落) 「無限の連鎖」とはどういうことか「あの日」「関係者」「多くの人々」の三つのことばを使って答えよう！

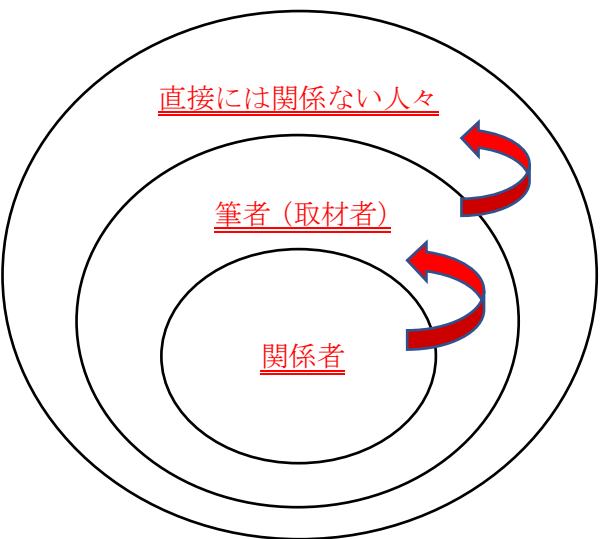
無限の連鎖

伝言に刻まれた「あの日」のことが、関係者だけではなく、時を超えて、多くの人々に伝わっていくこと。

続く…



次の図は「無限の連鎖」を図で分かりやすく説明したものである。二重線（  ）に入ることは（関係者／筆者（取材者／直接には関係ない人々）のどれかを図の中に書き込みなさい。



被爆の伝言はどのような存在だと筆者は考えているか    から一文を抜き出して答えなさい。

それは現代の私たちに、あの日のことを静かに、力強く語ってくれる遺産であり、承認なのである。

「伝言の『あの日』が伝わっていく無限の連鎖は、今も続いている。」ということばに込められた筆者の思いについて自分の考えを書こう！

（例）伝言に刻まれた被爆体験のことは、口コミで広がっていき、伝言には直接関係ない人たちが集まり、立ちつくす姿を目のあたりにした。このように、伝言を通して、多くの人に被爆体験のことが伝えられていってほしい、という筆者の思いが込められている。